



### 循環

朝晩の風は少しづつ涼しくなり、夕方から鈴虫やコオロギの唄が鳴り響くようになってきました。少しずつ秋の気配を感じます。

今年の夏はこの辺りでは雨が降りませんでした。

畑の作物が心配でしたが何とか乗り越えてくれて、年々増えている和綿は去年より元気なくらいです。畑では、種用に残した野菜のこぼれ種（風で飛ぶ）により、あちこちに勝手に野菜が育ちます。

人参、大根、ルッコラ、ラディッシュ、小松菜、紫蘇、蒔いていないのに勝手に出てきて美味しく実ってくれるので嬉しいです。

勿論蒔くべき時に蒔いた方がより良く育つのですが、「おっ、こんなところに立派な人参が」という柵から牡丹餅的な嬉しさがありません。

このちよっぴり幸せな発見を支えてくれるのが、固定種という自家採取可能な種です。

一般に売られている種は、F1種

といい、形、大きさ、品質が整いやすく大量栽培、大量出荷が得意な特徴を持っていきます。

しかし、このF1種は2代目ができにくく、子孫を残しにくいという非循環型の種です。

その土地の、気象の中で育ったという経験を翌年に循環していく事でその作物はその土地に適合していき、その土地で暮らすものの力となってくれます。

1950年頃より世界で特に途上国でF1種などの高収量品種が登場し、収量増大をもたらし、人々を飢えから救いました（緑の革命）。

しかしこの種は多くの肥料と水を必要とします。多くの養分を与える事で害虫の被害が増え農薬の使用量も増えます。結果、環境への悪影響、毎年種と農薬と肥料を買う経済的負担、更に化学肥料と農薬の大量投与により地力が低下し収量が減ってしまったというところも。

日本でもF1種の問題点は同じ。スーパーウイード（超雑草）、スーパーインセクト（超昆虫）など、増える農薬に負けない雑草、害虫が増え続け、更に農薬を強くするという終わりのない戦い。環境問題は進

み、体内に入る野菜は農薬まみれ、地力の低下により砂漠のような土になってしまった農地もあります。

さらにF1種という人工的に作られた種を使う事で、環境に適合し、古来から日本人を育ててきた野菜たちの多くが絶滅しています。

F1種や、遺伝子組み換えの種には、農業を支配しようとしている人達の影があります。種を支配してしまえば農業は支配できます。

知らず知らず僕らはその支配下に入っていて、イヤだと言った時にはもう種は絶滅していたという事になりかねません。

一方で、僕が買っている「野口のタネ」を始め固定種を守る人々も少ないながらも活躍しています。減農薬や、有機農法も少しずつ一般化してきました。

あとは僕たち消費者が学び、何を選択していくかで残るものが変わってきます。

命が循環していく力のある作物が残るといいですね。

日本は遺伝子組み換え食品が**いっぱい**

コーラ、発酵乳酸飲料、フルーツ

ジュース、清涼飲料水、スポーツドリンク、ポン酢や醤油など調味料、パン、アイス、漬物、酒類、ガム、ジャム、佃煮、練粉製食品、納豆、牛・豚・鶏肉、ウナギなど養殖魚

これら全てに遺伝子組み換え（以後GMと表記）作物が関係している可能性が**あります**。

日本はGM作物の世界一位の輸入大国なのです。

日本はトウモロコシの世界最大の輸入国で、約9割がアメリカ産、その内88%がGM品種です。

とうもろこしは直接食べるのではなく、家畜や養殖魚の飼料、油やコーンスターチ、異性化糖などに加工されています。

異性化糖とは、原料の90%以上がアメリカ産トウモロコシからできたコーンスターチです。ブドウ糖の一部を果糖に転換したもので甘味があります。**ぶどう糖果糖液糖、果糖ぶどう糖液糖の総称が異性化糖**です。

輸入しているアメリカ産トウモロコシの約90%がGMトウモロコシで、異性化糖の原料の90%がアメリカ産トウモロコシ。高確率でGMトウモロコシが混入している

ことがわかると思っています。

食品の原材料蘭にぶどう糖果糖液糖、果糖ぶどう糖液糖という文字を良く見ると思えます。この異性化糖は日本人一人あたり一年でなんと10 kg程を消費しています。

大豆も

大豆の国内自給率は4%。ほとんどアメリカから輸入し、その93%がGM品種で、醤油など、大豆製品に使用。

〜遺伝子組み換えって結局危険なの？〜

遺伝子組み換え食品を作っている会社は安全と言います。

GMは大量に化学肥料や農薬を使うのでそれによる害。

GM食品を長期的に摂取する事でアトピーや癌の危険性があるのではと言う人もいます。



フランスの大学の実験で、二年間にわたりラットにGMトウモロコシを食べさせたところ200匹中50〜80%に腫瘍ができました。GM品種の安全性テストは開発

者自身で行い、急性毒性のテストのみしか安全性テストをしていないという、不安な安全審査です。このねずみの実験は世界で大きな話題となりました。

ヨーロッパでは基本的に遺伝子組み換えには反対の立場で、遺伝子組み換えされた成分は記載するよう義務化されています。不安な物は却下という予防重視の対応です。日本は遺伝子組み換えの表示義務があるものの、企業側に有利になるような役に立たないものです。

遺伝子組み換えでないと表示されている商品でもGM品種を使っているという事があるわけです。

一人一人勉強して、何を次の世代に残していくか、真剣に考えないと、種のように絶滅してしまつて、もうどうしようもできないことになってしまいます。

〜おすすめのお店〜

会員にならなくても買えるお店

藤沢の「econo」、センター北駅近くノースポートモール内にある「ナチュラルハーモニー」、東光庵ホームページにもリンクが貼つてある「オーサワジャパン」

会員制だけどお試し買いもできる「生活クラブ」、「大地を守る会」。

完璧にしようと思わず、まずは調味料から揃えてみるのも良いと思います。色々相談にも乗りますので、お気軽にご相談ください。

勉強会東光會でもあらゆる情報を共有すべく努めていますので、ご興味ある方は是非ご参加ください。

・今後の予定

9月28日、10月19日、9時半〜12時、東光庵にて。

運動プログラムや手技講座、食や料理の講座もご要望があればいつでも開催いたします。ご相談下さい。

〜土に学ぶ〜

先月「奇跡のリンゴ」という映画が公開されました。

不可能と言われた無農薬、無肥料でのリンゴの栽培を成功させた木村秋則氏のお話です。無農薬無肥料の農法に変えてから七年間、リンゴ

には花は咲かず、無収入の年月を過ごしました。もう無理と思った矢先、自然の山の中で、病気も虫もなく元気に生きているどんぐりの木をみて、土の大切さに気づき、その後無

農薬無肥料でのリンゴの栽培に成功しました。

新米百姓の僕も、無肥料無農薬で畑をしています。

作物の光合成によって作られた養分が根から放出され、それを微生物が食べて育ち、その微生物が放出する栄養をまた作物が吸収するという、土と作物の間で栄養の循環が行われているということです。

作物と土の間でうまくやっているのに、そこに栄養を加えることでうまくいけなくなり、その処理として虫が来て、雑草がはびこる。

余分な養分を虫は食べるようでは肥料が少ないと虫はきません。

肥料を与えすぎると虫や雑草の害を受ける。それに薬で対応すると、虫や雑草はより強くなる。そして地力の低下。

そうならないよう栄養を減らすことでうまくいく事もある。

この関係、医療の現状にも似ていませんか？

食べ過ぎなど過剰栄養による生活習慣病。

風邪でもすぐに薬を使ってしまうことで免疫力は下がり、菌やウイルスは薬に負けない強さを得る。

体力は弱り、ウイルスは強くなる。土と作物の関係に似ています。

何をもって何を制するか、何を与えるか、というよりも余計な事をせず環境を整えるというだけで十分なかもしれません。

人も自然も強い、甘やかさずともうまくやる力があるようです。

それと木村さんはこんな話もしています。

毎日リンゴの木に話しかけをしてきたが、数本話しかける事をしなかった。そしたらその木だけ枯れてしまったと。

愛情も肥料になるようです。

手をかけた料理が美味しいように、手をかけた野菜が美味しいように、手と心の入った食べ物は美味しく、身体も元気になります。

愛情のこもった良いものが残っていくといいですね。

東光庵鍼灸指圧施術所

鍼灸あま指師 熊岡央企

【TEL】 0467-98-3213

【mail】 toukouan@hotmail.co.jp

【HP】 「東光庵」「熊岡」で検索

## 遺伝子組み換えの色々

ゲップをしない牛



メタンガスの温室効果はCO<sub>2</sub>の20倍  
温暖化対策牛です

牛は今12億頭いるとされ  
温暖化に大きく悪影響を  
与えています。ゲップより  
牛を減らす方が良い。

ターミネーター種子  
作物に実った種  
に毒素を発生させて、種を自殺  
させちゃうぞ  
綿栽培で使われる。



光る寿司  
ただのオシャレ目的



光る豚肉というのも  
騒動になりました。

フレーバートマト



熟す(腐る)遺伝子を除去したから  
いつまでも<sup>みずみず</sup>瑞々しい。2~3か  
月経っても新鮮に見える。美味しく  
なく生産中止。。米産トマトの  
7割以上はGMトマト。

サソリの毒を持った  
キャベツ  
農薬はかけなくて  
いいですよ、サソリ  
の毒が退治してくれ  
ますから。  
安全性は????



これは、動物と植物の遺伝子を組み合わせる  
事ができたと言う事。「牛のなる木」なんて  
いうのも作れてしまうかもしれません。

これらは市場に出ていないものもあります。

他にも人の母乳を出す牛、クモの糸を出すヤギ、特定の農薬をまかないと発芽しない種(種と農薬の二重取り)、羽をむしる手間をはぶけるヌードチキン、など想像もつかないようなものが、やりたい放題に実験されています。安全性は不明のままいつのまにか食べているという事にもなるかもしれません。

この遺伝子組み換えという技術ははたして必要なのでしょうか。この議論もできないまま、選ぶ権利すら与えてくれない日本の表示の仕方はこのままで良いのでしょうか。人を良くすると書いて「食」、人を良くする命の糧はいつのまにか利益の糧となってしまうかもしれません。その時僕たちはどうなるのでしょうか。

身近なところから見直してみましよう。